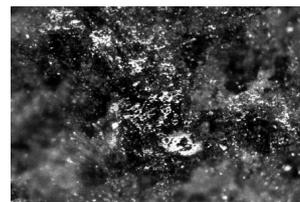


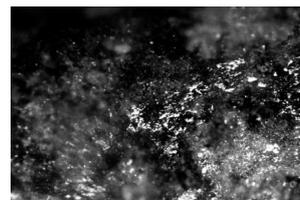
粗製剥片石器

96-224

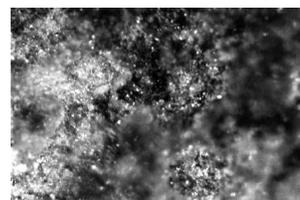
ホルンフェルス



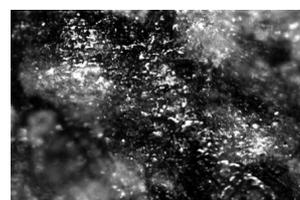
1



2



3



4

光沢密度

 高

 低

s = 2/3

【使用痕の特徴】

* 使用痕画像をクリックすると拡大表示します

使用痕写真【×100】

- 1 Bタイプの使用痕光沢。
- 2 Bタイプの使用痕光沢。発達度合いが弱い。
- 3 使用痕光沢は観察されない。
- 4 Bタイプの使用痕光沢。未発達段階の光沢。

【総合所見】

小形の礫端片を素材とし、刃部は素材剥片の鋭い末端辺を利用し、使用痕光沢も縁辺に沿って観察される。

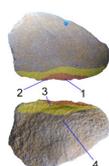
使用痕光沢タイプは、Bタイプである。線状痕は明瞭ではない。

以上の観察から、この石器はイネ科植物に対して用いられた可能性が高い。線状痕が明瞭でないために、運動方向は不明であるが、おそらく切断であると考えられる。

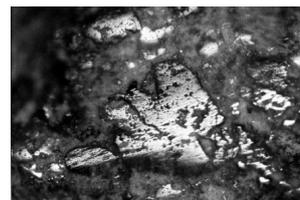
粗製剥片石器

96-226

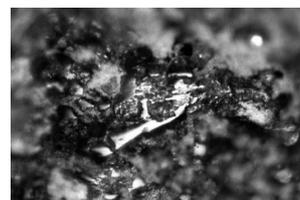
砂岩



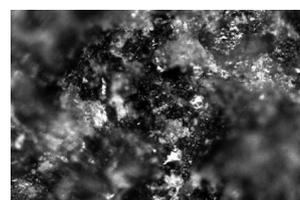
1



2



3



4

光沢密度



s = 1/3

【使用痕の特徴】

* 使用痕画像をクリックすると拡大表示します 使用痕写真【×100】

1 Bタイプの使用痕光沢。写真中央部の光沢はやや平坦で光沢上に線状痕が明瞭。

2 Bタイプの使用痕光沢。

3 Bタイプの使用痕光沢。

4 使用痕光沢は観察されない。

【総合所見】

大形の礫端片を素材とし、その鋭い末端辺を刃部としている。刃部には、肉眼で観察できるほどの光沢がみられる。使用痕タイプはBタイプが観察される。線状痕は、刃部縁辺に沿う方向で観察される。

以上の観察から、この石器はイネ科植物の切断に用いられた可能性が高い。

使用痕分布は表裏であまり差が明瞭でないが光沢密度が高い部分の範囲が表面側でやや広い傾

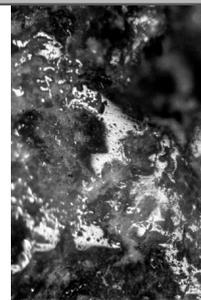
粗製剥片石器

96-227

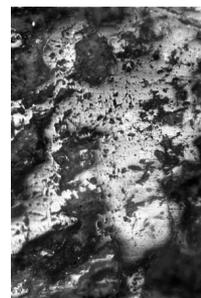
砂岩



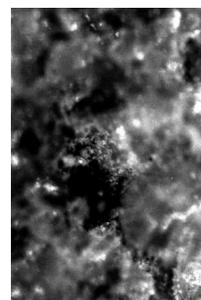
132



1



2



3

s = 1/3

光沢密度

 高

 低

【使用痕の特徴】

* 使用痕画像をクリックすると拡大表示します 使用痕写真【×100】

1 Bタイプの使用痕光沢

2 Aタイプの使用痕光沢、光沢面上に線状痕が観察される。

3 使用痕光沢は観察されない。

4

【総合所見】

刃部縁辺に肉眼でも観察できる使用痕光沢が観察される。使用痕光沢タイプはA,Bタイプが観察される。

また、線状痕は刃部縁辺にほぼ平行する方向で観察される。

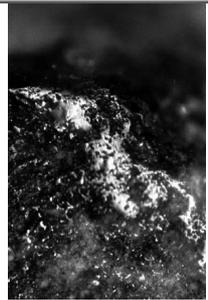
以上の観察から、この石器はイネ科植物の切断に用いられた可能性が高い。

さらに、石器表裏で使用痕光沢面分布に偏りがみられ、表面側により光沢面分布が広がる。

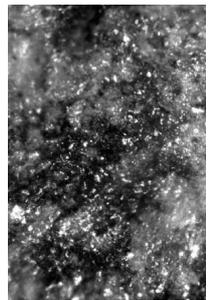
粗製剥片石器

96-228

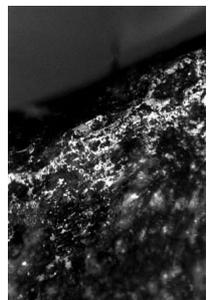
ホルンフェルス



1



2



3

s = 1/2

光沢密度
 高
 低

【使用痕の特徴】

* 使用痕画像をクリックすると拡大表示します 使用痕写真【×100】

- 1 Bタイプの使用痕光沢。
- 2 Bタイプの使用痕光沢。パッチがまだ未発達のもの。
- 3 Bタイプの使用痕光沢。発達度が弱い。
- 4

【総合所見】

刃部は、素材剥片末端のやや左よりの鋭い縁辺である。刃部には肉眼で観察できる光沢がある。使用痕光沢タイプは、Bタイプの光沢が観察される。

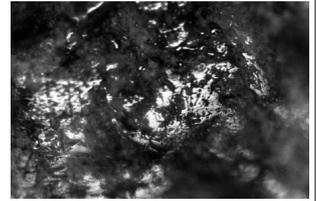
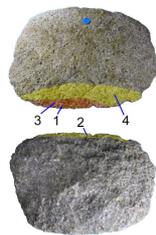
線状痕は、刃部縁辺に沿って観察され、縁辺にほぼ平行する。したがって、刃部に沿った石器の動きが推定できる。このことから石器の機能は、切断であると考えられる。

以上の観察からこの石器は、イネ科植物の切断に用いられた可能性が高いと考えられる。

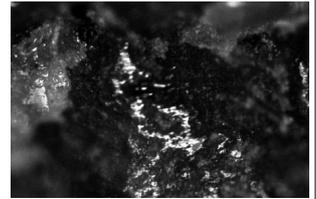
粗製剥片石器

96-229

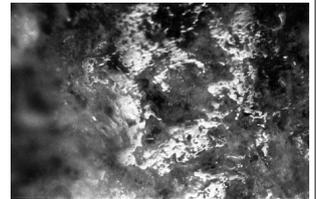
石英流紋岩



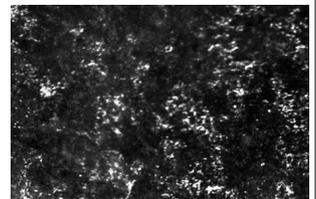
1



2



3



4

光沢密度
 高
 低

s = 1/2

【使用痕の特徴】

* 使用痕画像をクリックすると拡大表示します 使用痕写真【×100】

- 1 Bタイプの使用痕光沢。
- 2 Bタイプの使用痕光沢。
- 3 Bタイプの使用痕光沢。
- 4 Bタイプの使用痕光沢（未発達段階）。

【総合所見】

大形の礫端片の鋭い末端辺を刃部としている。刃部には肉眼観察でも確認できるほど光沢が見られる。

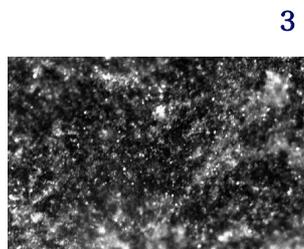
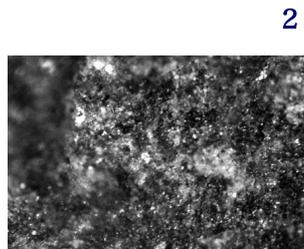
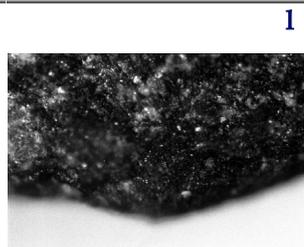
使用痕光沢は、良く発達したBタイプが観察される。線状痕も明瞭で、刃部縁辺にほぼ平行している。したがって、刃部縁辺に沿うような石器の動きが推定される。

以上の観察から、この石器はイネ科植物の切断に使用された可能性が高いと考えられる。

粗製剥片石器

96-285

頁岩



光沢密度
 高
 低

s = 2/3

【使用痕の特徴】

* 使用痕画像をクリックすると拡大表示します 使用痕写真【×100】

- 1 使用痕光沢は観察されない。
- 2 使用痕光沢は観察されない。
- 3 使用痕光沢は観察されない。
- 4

【総合所見】

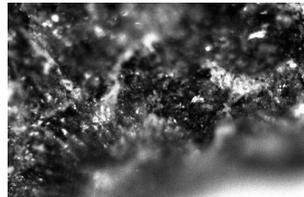
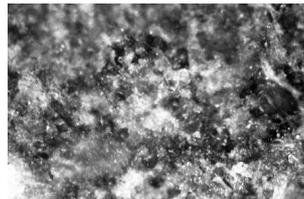
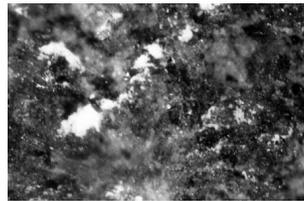
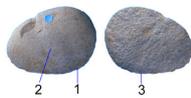
刃部と思われる縁辺部を中心に表裏全面に対して観察おこなうが、使用痕光沢は観察されない。しかし、その縁辺には微細剥離痕が観察される。

また、素材剥片の打点を除去するような正方向剥離の加工がみられ、ただの剥片ではない。

粗製剥片石器

96-288

砂岩



s = 2/3

光沢密度
 高
 低

【使用痕の特徴】

* 使用痕画像をクリックすると拡大表示します 使用痕写真【×100】

- 1 使用痕光沢は観察されない。
- 2 使用痕光沢は観察されない。
- 3 使用痕光沢は観察されない。
- 4

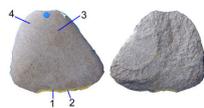
【総合所見】

刃部と思われる縁辺部を中心に表裏全面に対して観察おこなうが、使用痕光沢は観察されない。

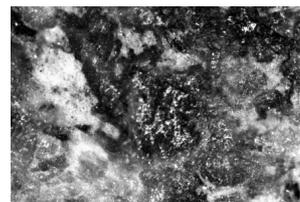
粗製剥片石器

96-294

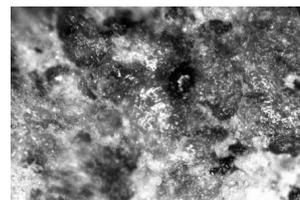
砂岩



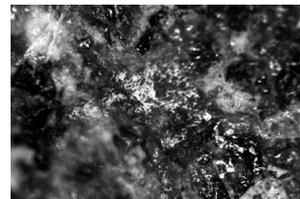
1



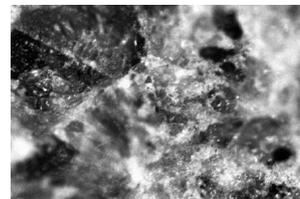
2



3



4



s = 1/2

光沢密度



高

低

【使用痕の特徴】

* 使用痕画像をクリックすると拡大表示します 使用痕写真【×100】

1 鈍い網目状の光沢。不明光沢。

2 Bタイプの未発達段階の光沢と思われる。

3 Bタイプの使用痕光沢。

4 使用痕光沢は観察されない。

【総合所見】

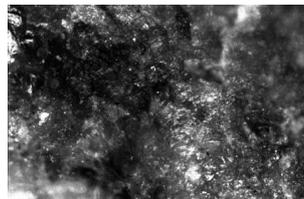
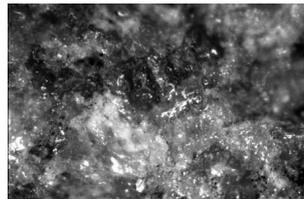
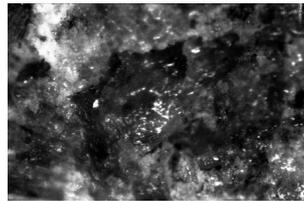
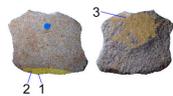
表裏面の刃部縁辺に非常に弱い使用痕光沢が観察される。光沢タイプはBタイプであるが、光沢パッチが小さく、未発達段階のものが観察される。

また、写真3の箇所のごく限られた範囲にBタイプに似た光沢（いわゆるBタイプほど丸みがなく平坦な光沢面をもつ）が観察された。この光沢の成因は不明であるが埋没光沢の一種と考えられる。

粗製剥片石器

96-298

砂岩



s = 1/2

摩耗範囲 光沢密度

		高
		低

【使用痕の特徴】

* 使用痕画像をクリックすると拡大表示します 使用痕写真【×100】

- 1 Bタイプの使用痕光沢（未発達段階）。
- 2 Bタイプの使用痕光沢（未発達段階）。
- 3 不明光沢。
- 4

【総合所見】

中形の礫端片の末端辺を刃部としている。刃部は刃こぼれしており、使用痕光沢は表面側に光沢範囲が広がり、裏面は刃部縁辺にごくわずか観察されただけである。使用痕光沢タイプは、Bタイプである。よって、イネ科植物に対して用いられた可能性が高い。

さらに、刃こぼれは主要剥離面側にかたよるという特徴がある。

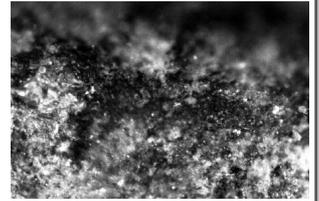
また、主要剥離面側のバルブ上に顕著な摩耗がみられる。フッシャーの稜上がよく摩耗してい

粗製剥片石器

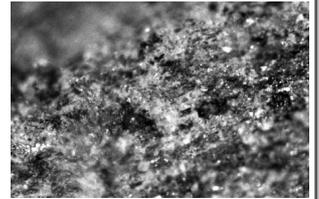
96-307



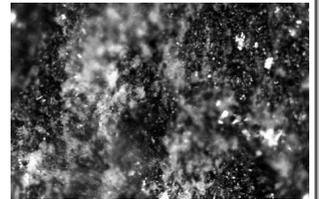
1



2



3



s = 2/3

光沢密度
 高
 低

【使用痕の特徴】

* 使用痕画像をクリックすると拡大表示します 使用痕写真【×100】

- 1 使用痕光沢は観察されない。
- 2 使用痕光沢は観察されない。
- 3 使用痕光沢は観察されない。
- 4

【総合所見】

石器表裏面の全面について顕微鏡で観察をおこなったが、使用痕光沢と思われる光沢は観察されなかった。